



2019年度 児童発達支援 自己評価 集計結果

公表日：令和2年2月10日

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	✓		個別では十分だが、グループでは適切であるとは言い切れない。ブースが足りないときは休憩スペースを使うことがある。
	2	職員の配置数は適切であるか	✓		一対一は必ず配置ができています。事業所は2つのドアに分かれており、フリースタッフをそれぞれ一人ずつつのように配置しているが難しい日や時間帯がある。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	✓		カラーボックスを使ったり、視覚補助カードを用いて構造化している。段差はない。しかし、通路が狭い。パーテーションの足が邪魔になる場合がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	✓		清潔で過ごせやすい環境整備を心掛けている。子供に合わせて机とイスを変えている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	✓		業務の振り返りと共有を行うことでPDCAサイクルの定着を図っている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	✓		毎年、保護者等向け評価を実施し、業務改善につなげている。年2回懇談会を実施し、保護者等の意向等を把握するよう努めている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	✓		ホームページで公表
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	✓		スーパーバイザー(臨床心理士)に指導及び評価を受け、療育面での業務改善に活かしている。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	✓		スーパーバイズのほか、職員間で勉強会を開催している。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	✓		毎回10分間のアセスメントを行っている。また年2回個人面談を行っている。
	11	子供の適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	✓		利用開始時に標準化されたアセスメントツールを用いて利用者の適応行動の状況を聞き取りしている。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、そのうえで、具体的な支援内容が設定されているか	✓		ガイドラインで示されている支援内容から適切な項目が選択され、具体的な支援内容が設定されている。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	✓		個別支援計画に沿って実施
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	✓		児発管と療育担当スタッフが立案している。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	✓		環境変化に適応しにくい利用者は固定化し安定を図っている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成しているか	✓		希望に沿って個別とグループ療育を行っている。

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
適切な支援の提供	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	✓		グループ療育前には必ず行っている。個別療育においては、午前療育がある場合や準備に追われている場合、行えない日がある。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	✓		業務終了後振り返りを行い確認を行っている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	✓		毎回記録を記入し、検証と改善につなげている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	✓		年2回のモニタリングを行ったうえで個人面談を実施、個別支援計画を作成している。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	✓		療育担当スタッフ、児発管、管理者などが出席している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	✓		必要に応じて子どもセンターやそのほかの関係機関と連携を取っている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	✓		対象者はいないが、法人内では医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもが通所しており、看護師も同席している。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連携体制を整えているか	✓		同上
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	✓		保育所等訪問支援を実施している。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	✓		同上
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	✓		定期的な連絡会に参加し、連携を図っている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	✓		クリスマスコンサートや、夏休みのイベントを主催し、障害のない子どもと一緒に活動している。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	✓		自立支援協議会に参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	✓		毎回10分の療育内容報告時間に共有をしている。その他、必要な時間に応じて情報を共有している。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか		✓	毎回10分の療育内容報告時間で行っている。その他、必要に応じて相談は受け付けているが、まだペアレントトレーニングの知識・経験不足のスタッフも多いため研修などで改善したい。

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	✓		契約時及び更新時に書面にて十分に説明をしている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	✓		年2回モニタリングを行ったうえで個人面談を実施。見直しを行った個別支援計画を保護者に提出し同意を得ている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	✓		毎回の療育後の時間に相談を受け付けている。年2回の個人面談のほか、電話、メールでも随時対応を行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	✓		懇談会と茶話会を年2回ずつ開催している。特に茶話会では保護者同士気兼ねなく話す機会が設けられている。また、父母の会の研修等に職員が参加し、活動を支援している。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	✓		苦情・相談受付窓口の掲示と意見箱を設置。対応体制を整備し、迅速かつ適切に対応できるようにしている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	✓		HPIに活動概要を掲載。メールリストで情報を発信。懇談会で直接発信。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	✓		鍵付きのロッカーで書類を管理。写真等の利用範囲についても毎年書面にて確認している。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	✓		ケースや状況に応じた配慮を行っている。直接、電話、メールなど利用者に合わせて伝達方法を変えている。イラストカードなども活用。
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	✓		クリスマスコンサートや、夏休みのイベントを主催し、市民の方も呼びしている。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	✓		防犯研修に参加したり、事業所内に感染症予防のポスターを掲示。非常災害時緊急対応マニュアルを事業所に据え置きしている。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	✓		回数が少ないので増やしていきたい。
	43	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	✓		予防接種、経歴についてはこちらからは聞いていないが、サービス利用開始前に服薬やてんかん発作等の児童の状況を確認している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	✓		面談時に確認している。現在食物アレルギーをもつ利用者はいない。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	✓		事業所内に事故対応手順を掲示している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	✓		市や県からの講習(全員参加)
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	✓		安全を守るためやむを得ず身体拘束を行う以外は行っていない。契約書に明記し、説明はしているが、個別支援計画に記載はしていない。